
E L E V E N ~小学生編~

鳥丸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ELEVEN～小学生編～

【ISBN】

N4436A

【作者名】

鳥丸

【あらすじ】

サッカーボー少年、滝澤大樹のサッカー人生を描いた青春サッカー小説！！

第1話・2人のサッカー少年

「大樹^{だいき}！早く練習行こうぜ！」

「おう！」

二人の仲良し小学生、滝澤大樹^{たきざわだいき}と杉村裕也^{すぎむらひろや}は近所のジュニアサッカークラブチームの練習場に向かつて行った。この2人の少年が所属するクラブチームはこの辺ではなかなかの実力で、様々な大会で優勝経験もある「フェニックスFC」という強豪チームだ。そして大樹は、このチームのエースストライカー。裕也はゲームメイカーと、2人共チームのエースである。

「よし、練習場が見えてきた 急ごうぜ大樹！」

裕也は走つて練習場に向かつた。

「おい待てよ裕也……！」

大樹が追い掛けようとした瞬間、裕也は立ち止まつた。

「どうしたんだよ裕也？」

大樹が練習場に目をやると近所の中学生のサッカー少年3人が練習場を占領していて、他のフェニックスFCのメンバーが脅えて立ちつくしていた。

「なんだよアイツら！俺達の練習場なのに……！」

「まだ監督が来てないんだな。どうする大樹？」

「決まつてんだろ！取り返すんだ……！」

大樹は一目散に練習場に駆け込んだ。裕也も急いで後を追う。

「おい、お前ら！ここは俺達の練習場だぞ！出ていけよ……！」

大樹は中学生3人に臆すことなく怒鳴る。すると中学生達は大樹を睨みつけながら近寄ってきた。

<続>

第1話・2人のサッカーボーイ（後書き）

次回、中学生と直接対決！？

第2話・勝負

「なんだとクソガキ？お前らみたいなガキは近所の公園でボール遊びでもしてろ！」

大樹はカツとなつて中学生達に飛び掛からうとしたが、裕也がギリギリで押さえ付けた。

「離せよ裕也！」

「こには俺達の場所なんだ。使いたきや俺達にサッカーで勝つてからにしろよ。」

興奮する大樹を押さえ付けながら裕也が冷静に中学生達に言った。いざという時、冷静に対処できるのが裕也のいい所だ。

「俺達がお前らに？バカか！そんなことやらなくてもわかるだろうが！お前らみたいなガキ、相手になんねえよ。」

「だつたら勝負してみろよ！」

さつきまで笑っていた中学生が裕也の気迫に一瞬ピタリと止まった。「……調子にノリやがって！だつたらすぐかかってこいやー全員まとめて潰してやるー！」

「やるのは俺達一人だけだ。」

なんと裕也は中学生三人相手に一人だけで勝負を挑んだのだ。これには中学生達は完全に頭にきていた。

「テメエ！いいかげんにしろよーー！」

「やればわかるよ。」

裕也はニヤリと笑った。大樹もようやく落ち着いて、同じように笑つた。

「さあーーとつと始めるぞ！ルールは先に3点入れたほうが勝ちでいいだろーー！」

そう言つと中学生三人は一気に攻めてきた。裕也は冷静に二人の動きに合わせてディフェンスする。

「こいつ…

あまりの裕也の小学生離れした動きに中学生達は戸惑っている。その瞬間を裕也は見逃さなかつた。ボールを奪い、一気に攻め上がりた。

「大樹いくぞーー！」

<続>

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4436a/>

E L E V E N ~小学生編~

2010年10月30日20時29分発行